

子牛の健康を一番に考えて

出荷成績を改善!

和牛繁殖農家にとって最も重要なのは生まれてきた子牛を事故なく健康に育て上げ、優良素牛として出荷することだ(表1)。一般的な家族経営の農場が、基本的な飼養管理に立ち返り、事故率を抑えながら、出荷成績を改善した事例を紹介する。

表1. 和子牛の事故率(2011年度)

月齢(カ月)	0	1	2	3	4
事故率(%)	1.5	0.7	0.5	0.4	0.4
月齢(カ月)	5	6	7	8	9
事故率(%)	0.3	0.3	0.2	0.1	0.2

※(独)家畜改良センター個体識別情報より推定

素牛出荷となる9カ月齢までに約5%の子牛が肺炎などで死亡している

農場の概要

当農場は山間地を利用した自然豊かな放牧主体の繁殖経営を行っている。2年前までは繁殖雌牛が今よりも多く、子牛が密飼いになり、かつ飼養管理の目が行き届かなかったことから、冬場を中心に年間10頭以上の子牛死亡事故が発生していた。そのような状況下、後継者が農場に入ったことで管理者が増え、さらにJAやくみあい飼料、公的機関を中心とした技術指導が行われ、以下の飼養管理の見直しが徹底された。

主な実施具体策と改善結果

まず、子牛の栄養状態を良好に保つことを基本とした。具体的にはくみあい飼料から提示を受けた給与体系(表2)に基づき、配合飼料と子牛が食べやすいように短くカットした柔らかい粗飼料(写真1)を適切な量給与し、月齢に応じて栄養を充足させた。

また、母牛のお腹の中にある段階から子牛の健康を意識し、母牛の分娩2カ月前には必ず増し飼(2kg程度)をしたことで、子牛の生時体重が常時30kgを超えるようになった。

なお、薬剤に頼らない衛生対策として、子牛を群で管理し、できるだけ牛舎がオールアウトになる期間を設定して、その間に石灰消毒を実施した(写真2)。子牛が小さい段階で哺育牛舎の環境を清浄化し、コクシジウムの濃厚感染を抑制し、下痢の発生を抑えている。

さらに現在は、子牛の体重測定や血液抗体検査を定期的に実施し、数値で子牛の状態を把握できるよう努めている。

この結果、今年度は死亡事故の発生がなく、加えて子牛の出荷成績は、昨年度と比較し、日齢を1カ月短縮しながら、増体を確保することが可能となった(表3)。

ちなみに当農場が出荷する県子牛市場では、体重や胸囲などの情報をもとに優良子牛として認定する制度がある。認定牛は全出荷頭数の約1割強しか出ない。そのなかで、今年度は当農場出荷頭数の約4割が優良子牛として認定されており、購買者にも高く評価されていることがわかる。

生産費削減の取り組みと今後の目標

生産費削減のため、繁殖経営では繁殖雌牛に給与する粗飼料費を低減することが最も重要であるが、当農場では通年放牧で繁殖雌牛を管理していることから、5〜10月は放牧地の牧草でまかなうことができる。

また、それ以外の期間は地元の稲わらや野草を積極的に集めて活用することで、購入粗飼料の割合を可能な限り抑え、1割強の飼料費削減を実現している。

今後は受精卵移植の技術を活用し、優良な繁殖雌牛を増やししながら、血統的な面から和牛の改良を進めていくことが目標である。

表2. 給与体系 (kg)

性	飼料	哺育期				育成期				
		0.5カ月	1カ月	2カ月	3カ月	4カ月	5カ月	6カ月	7カ月	8カ月
去勢牛	人工乳	0.2	0.4	1.4	3.0					
	育成用配合飼料					3.6	4.0	4.0	4.0	4.0
	軟質粗飼料(クレイン等)	0.1	0.1	0.1						
	良質粗飼料(チモシー等)				0.5	2.0	2.5	3.0	3.0	3.0
	稲わら							0.5	0.5	
雌牛	人工乳	0.2	0.4	1.3	2.8					
	育成用配合飼料					3.4	3.5	3.5	3.5	3.5
	軟質粗飼料(バミューダ等)	0.1	0.1	0.1						
	良質粗飼料(チモシー等)				0.5	2.0	2.5	3.0	3.0	3.0
	稲わら							0.5	0.5	

※粗飼料は可能な限り4種類給与し、育成期は不断給与する

表3. 増体結果

		2012年度	2013年度
出荷日齢(日)	雌牛	282	253
	去勢牛	271	238
出荷体重(kg)	雌牛	241	230
	去勢牛	249	282
推定DG(kg)	雌牛	0.75	0.79
	去勢牛	0.81	1.06

※2013年度は4〜10月実績
 ※生時体重を30kgとしてDGを推定
 ※DG=1日あたりの増体重



写真1. 粗飼料(左:育成期用、約5cmのチモシーなど混合粗飼料/右:哺育期用、約3cmのクレイングラス)



写真3. 牛房にも簡易飼槽を置き、育成期に十分な粗飼料が食べられるように工夫している



写真2. 薬剤に頼らない衛生管理として、徹底した石灰消毒を行った

所在地: 中国地方
 飼育頭数: 和牛繁殖雌牛50頭
 従業員数: 3人(家族経営)